

校長室より

□『瑞風』がやって来る ～訪れる方々に瑞々しい風を！～

20年ほど前の話からはじめます。

山陰の小京都とよばれる島根県津和野町。津和野城跡である「城山」(標高367m)から津和野の町並みが一望できる。タイミングが良ければ、汽笛を鳴らして煙を吐きながら街中を走る「SLやまぐち号」を見ることがができる。昔にタイムスリップしたような穏やかな時間が心地よい。

この風景を描いた歌がかつてヒット曲になった。「元気であるか 街には慣れたか 友達できたか 寂しいか お金はあるか 今度いつ帰る」で始まる「案山子」(作詞・作曲 さだまさし)である。詞の中にある「城跡から見下ろせば蒼く細い川 橋のたもとに造り酒屋のレンガ煙突……」や「山の麓 煙吐いて 列車が走る 風が雑木林を駆け落ちて来る……」というフレーズは、まさにこの津和野の風景を歌っている。都会で一人暮らしをしている弟(妹)を兄が気遣うというテーマは、その風景と相まって心に染入る。

私が津和野高校で勤務していた頃、ベテランの先生の勧めでどのクラスもホームルームの時間に城山に登った。当時は卒業生の約80%程度が地元を離れており、卒業までにこの風景を心に留めておいてほしいという教職員の思いからであった。クラスによっては、ラジカセを担いで城山に登り、「案山子」を聞きながら風景を楽しんだ。

その年も城山をめざしてクラスの生徒たちと坂道を登った。元気な生徒たちはどんどん先へ進み、教員は最後尾だ。山手から観光客らしき老年のご夫婦が降りてこられた。すれ違いざまに大きな声で「学校の先生ですか」と声をかけられた。「生徒が何かしでかしたかなあ」と思いつつ「そうですが……」と答えると、さらに大きな声で「先生とこの生徒さんは、いつもあげな大きな声で挨拶しょっとね。良かばい！ いまどきこげな素晴らしい高校生と出会うとば、うれしかばい！ 津和野に来て良かったばい！」と九州弁でおっしゃった。

確かにみな元気のよい挨拶をしている。先頭集団を形成していた男子生徒の中には、常に誰にも大声で挨拶をするAさんがいた。彼につられてか、周りの男子の挨拶もいつもより元気がいい。ただいつものことなので特に気に留めていなかったが、改めて観光客の方に自分の学校の生徒の良さに気付かされた。しかもすれ違いざまに、初めてお会いする方に、こんなに褒められたことはない。

このことがあって、その日までの「地理」の授業では「島根県の観光資源は、なんととっても豊かな自然、歴史や文化である」と言ってきたが、次の授業から「最も大切な観光資源は『人』だ」と加えることにした。

ちなみに前述のAさんは、小さい時からあるプロ野球球団の熱烈なファンで、高校時代にはその球団職員になりたいという夢があった。今はその夢を叶え球団広報として活躍していると聞いた。彼にはピッタリの仕事だと思った。様々な仕掛けをしてファンと球団を繋いで楽しませているだろう。

話は変わるが、昔から洋の東西を問わず、旅人は大切にもてなすもの、とされてきた。その理由は様々だろうが、新たな「ひと・もの・こと」との出会いが新しい風を起こしてくれるのでは、という期待感も一つにあるだろう。

6月22日(木)からJR宍道駅に毎週木曜日の8時22分、豪華寝台列車トワイライトエクスプレス瑞風が停車する。初日は地域をあげて歓迎することになる。本校生徒会も地域の一員としてお出迎えする予定だ。ちょうど登校時間とも重なる。毎週木曜日「ようこそ宍道へ、島根へ、山陰へ」と、本校生らしい「ふるまい」で歓迎しよう。そして訪れる方々に瑞々しい風を感じていただこう。

編 | 集 | 後 | 記

「がんばって」という言葉、皆さんも一度は口にしたことのある言葉ではないでしょうか。気軽に使いがちなこの言葉も、受け手によっては重く感じることもあるようです。では、他にどのような声掛けをすると良いでしょうか？ ちょっとだけ調べてみました。

「じっくりいこうよ」「応援しているよ」などなど…。自分自身のモチベーションが上がる言葉、皆さん、どんな言葉を持っていますか？そして使っていますか？